

## 令和元年度 大阪国際大和田中学・高等学校 学校評価

大阪国際大和田中学・高等学校  
校長 中井 孝典

### 1 めざす学校像

全人教育を基礎として礼節を重んじ世界に通じる心豊かな人間を育成する学校

#### 【めざす学校像】～ さらなる躍進をめざして ～

- 礼節を重んじ、国際社会に通じる豊かな心をもった生徒を育成する学校
- 進学校として進学実績の向上をめざし、保護者から信頼され、期待される学校
- 全てにおいて「チーム大和田」として組織的に一丸となって取り組む学校
- 日本や国際社会で活躍できる高い「志」を持った人材を育成する学校
- 人権を尊び安全安心な学校として、生徒や保護者が安心し、笑顔が溢れる学校

#### 【生徒に育みたい力】

- 高い教養と正義感に裏打ちされた豊かな人間力
- 課題を乗り越え、高い志に向かって最後まで頑張り抜く強い精神力
- 学んだ知識や経験をつかって応用や創造する考える力
- 世界で活躍できる高い資質や能力

### 2 中期的目標

#### 1 確かな学力の育成

##### (1) 3年間を見通した高い学力の定着に取り組む

- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の「授業が良く分かる」の項目をAが令和元年度末において30%以上、令和2年度末50%以上をめざす。
- イ 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活動をスムーズに連動させて学力を向上させる。
- ウ 文武両道を奨励し、部活動への参加者が80%（運動系、文化系の合計）以上をめざす。
- エ 高い志の涵養をはかるとともに、難関大学の合格者数を増やす。令和2年度の大学入試で京大、阪大、神戸大の合計人数を20人以上、関関同立にあっては、延べ合格者数を250人以上になることをめざす。

##### (2) 学習指導の充実に取り組む

- ア 各教科毎に3年間を見通した学力育成プログラムを作成する。
- イ 本校の生徒実態を踏まえた、学習到達目標の点検を行うとともにさらなる充実に取り組む。
- ウ 電子黒板またはプロジェクターを全教室に導入し、一層の授業改善を行う。
- エ 授業評価と研究授業、公開授業の充実（教科の枠を超えた授業研究の実施）し、互いに見学する回数を1人平均3回以上にする。
- オ 英語に対する学習意欲を増加させ、英語検定2級以上の生徒が全校で150人以上、またはGTEC-CBTにおいて600点以上の生徒が受験者の80%以上になることをめざす。

#### 2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

（夢・志の育成とともに、豊かな人間性の育成）

##### (1) グローバルに活躍する人材の育成

- ア 海外の優秀な大学の授業を体験して世界を知らしめ、大きな刺激を与える。ケンブリッジ大学、UCLAでの研修を実施する。
- イ 海外研修（修学旅行を含む）を充実させ、世界を意識させるとともに英語力の向上をはかる。
- ウ 大阪国際大学と連携し、世界に羽ばたく意欲を高める取り組みを実施する。

#### 3 教員の資質向上

##### (1) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。（教育相談委員会）

- ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な問題で登校できなくなる生徒を支援し、不登校状態の生徒を0に近づける。
- イ 学年連絡会を活性化させ、学年団で生徒を支援する体制を構築し、入学した生徒が全員卒業できるようにする。

##### (2) 中堅、若手教員の資質の向上

- ア 新規採用教員に対して教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
- イ 若手教員に対しても教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
- ウ 中堅教員に対しては学校運営の視点の育成を図る。
- エ 人権に対する意識向上を図る。

#### 4 教職員の学校運営に対する意識の向上

- ア 職員会議の時間を1時間未満に短縮し、教員が生徒と係わる時間を増やす。
- イ PTAの活性化に協力する。
- ウ 学校における危機管理に関する研修会を開催し、意識の向上を図る。

3 本年度の取組内容及び自己評価

自己評価：◎目標以上 ○ほぼ目標どおり △目標に達していない ×全く取り組めていない

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 大和田スタンダードの実施と検証を行い各教科ごとの到達度を高める。	(1) ア. 大和田学力育成プログラムの内容の充実を図る。 イ. 学習到達低位の生徒への組織的な対応 ウ. 土曜日の活用を研究し実施する。	(1) ア. 3年間を見通した学力育成プログラムの改良 イ. 補習、講習の充実 指名補講として10回以上実施する。 ウ. 3年生対象の進学講習等を10回以上実施する。	(1) ア. 3年間を見通した学力プログラムは新しくシラバスを作成するなど改良した(△) イ. 補習、講習は考查ごとに指名講習を実施した。(○) ウ. 夏期講習は昨年と同じく10日間実施した。 また、3学期の通常授業後(2月)に進学者対象の特別授業を実施した。(○)
	(2) 授業改善の取組を行い生徒の授業満足度を向上させる。	(2) ア. 「一方的な授業形態を改め、双方向の授業」を今まで以上に推奨し推進する。 イ. 教員相互の授業見学を行い、自身の授業改善を行う。→見学回数5回以上(全教員) ウ. 授業力向上のために研究授業を行い、大阪国際大学の教授等外部講師から評価を受ける。 エ. 先進的取組みの視察や授業見学などによる教科指導法の研究を実施。 オ. 英語教育の見直しを行う。	(2) ア. 学校関係者評価(生徒)の「授業が分かりやすい」のA評価が30%を上回る。 イ. 相互の授業見学5回以上 ウ. 各教科のべ3回以上 エ. 他府県等の視察3か所以上 オ. 「聞く」「話す」を取り入れた授業を展開する。	(2) ア. 令和元年度 31.3% (○) (A+B 95.2%) H29年度 20.9% ⇒ H30年度 26.2% (A+B 80.7) (A+B 81.5) イ. 相互の授業見学4.0回(△) (最低2回、最大6回) ウ. 研究授業・各教科1回実施 外部への公開は出来なかった(×) エ. 他府県等の視察0回(×) オ. 高校1年生と2年生で週に1回プレゼンテーションを行う授業を実施した。また、2学期末には全生徒の前で各クラスから選ばれた優秀な生徒の発表を行った。(◎) また、概ね全ての英語の時間では「聞く」「話す」の授業を実施できた。 ※学年末の発表は中止となった。
	(3) 自学自主の態度を養成し、意欲的に学習する姿勢の涵養	(3) ア. 家庭学習の時間の確保を行い、家庭で学習を進んで行う習慣を身につけ、学習意欲を高めることによって自己の将来を展望させる。 イ. 高い志の涵養 ウ. 難関大学の合格者数を増やす。	(3) ア. 家庭での学習時間は平日に2時間、休日には3時間をめざす。 イ. 全学年の勉強合宿の開催 ウ. 国公立大学合格者数60人以上をめざす。 関関同立の合格者数の合計が250人以上をめざす。  (京大、阪大、神戸大の合計10人以上を維持する。)	(3) ア. 家庭学習 平日(9月比較) (△) 1年生 H30 1時間20分 ➡ R1 1時間28分 2年生 H30 1時間28分 ➡ R1 1時間29分 3年生 H30 1時間47分 ➡ R1 1時間24分 休日(9月比較) 1年生 H30 2時間12分 ➡ R1 2時間13分 2年生 H30 2時間15分 ➡ R1 2時間11分 3年生 H30 2時間47分 ➡ R1 2時間14分 ※勉強時間の減少も見られる。 イ. 全学年、勉強合宿を実施した。(○) ウ. 関関同立の合格者 277名(◎) (関大 67 ➡ 94 関学 8 ➡ 29 同志社 37 ➡ 48 立命 100 ➡ 106)  国公立の合格者 15名(3月2日現在 A0、推薦 1名 市大医学部医学科合格) 3月2日現在では一般入試の結果は未定 昨年並みの結果を予想している。 ※昨年度 65名 京都1、大阪8、神戸4、大阪市大6、大阪府大7、名古屋1、北海道1他

	(4)英語力の向上	(4) ア. 英検2級以上又は TOEFL 又 GTEC-CBT を受験する。	ア 英検2級を100人以上  TOEFL-IBT, GTEC-CBT の平均点の向上	ア 英検の結果(◎) 大きく伸ばすことが出来た。 英検 準1級 中 0名 高 5名 計 5名 2級 中 6名 高 192名 計 198名 準2級 中 31名 高 125名 計 156名 参考 H30 準1級 中 0名 高 2名 計 2名 2級 中 5名 高 84名 計 89名 準2級 中 36名 高 106名 計 142名  GTECの結果は集計中
2 グローバル社会に貢献できる人材の育成	(1) グローバルリーダーの育成をめざし、それにふさわしい素養を身につけさせる。	(1) ア. グローバルな視点を取り入れた内容の講演の実施  (外国人の研究者や留学生などによる英語による講演や発表も含む。)  イ. 心を充実する教育の実施   ウ. ①English Day(1日英語漬け)   ②海外の大学を活用した海外セミナーを実施する。   エ. 海外の高校との交流を実施する。 課題研究発表の機会として、双方の生徒の研究意欲の増進につなげる。	(1) ア. グローバルな視点の講演会、英語による講演会を計3回以上実施する。  イ. ココロの学校を年間5回以上実施する。   ウ. ①阪大または京大に留学している外国人の留学生を活用する。   ②海外の大学を活用した海外セミナーを実施する。   エ. 海外の高校生と交流する。	(1) ア. 英語による講演会(△) イングリッシュデイにおいて、8名の外国人の留学生から英語で母国の文化や特徴などについて講演していただいた。  イ. ココロの学校(◎) 服部匡志(眼科医) 「人間は人を助けるようにできている。」 佐野有美「マイナスをプラスに努力する」 一井彩子「命の大切さを学ぶ」 奈佐誠司(車椅子ダンサー) 「ダンスで心のバリアフリーを」 伊藤大輔(マジシャン) 「卒業する君たちへ」  ウ. ①イングリッシュデイ(○) 7月20日実施 大阪大学への留学生8名を招聘して1日英語漬けを実施。(本校のネイティブ2人も参加) 留学生の母国紹介、英字の壁新聞作成、スカベンジャーハント他  ② Cambridge 大学研修。(○) Homerton College で実施した。 R1.8.3~8.10 参加者は8名 UCLSA 研修 米国でインフルエンザ大流行のため中止 ベトナム研修 中止 新型コロナウイルス流行のため中止  エ オーストラリアの姉妹校から生徒が来校し有意義な交流をした。(◎) 7月 Church Grammar School (6名) (Launceston, Tasmania) R1.7.9~R1.7.14 8月 Geelong Grammar School (4名) (Melbourne) R1.9.1~R1.10.2 9月 International Grammar School (Sydney) R1.9.14~R1.10.5 (1名)  ※ 新型コロナウイルスの影響により、2月、3月の海外研修は全て中止となった。

<p>3 教員の資質の向上</p>	<p>(1)生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進</p> <p>(2)若手教員の育成</p> <p>(3)人権に関する意識の向上</p>	<p>(1) 精神的な病等による長期欠席者または不登校者に対するケアを行う。</p> <p>(2)授業力の向上</p> <p>ア. 年間を通して、若手教員間での授業研究を促進する。</p> <p>イ. 教科指導力の向上をめざして大学と連携し、大学の専門知識をもった教授等から指導を頂く機会を作る。</p> <p>(3)人権HRや人権研修の実施</p>	<p>(1) 担任と養護教諭、カウンセラーの連携を深める。</p> <p>(2)授業力の向上</p> <p>ア. 新規採用の教員については相互の授業見学を1人5回以上行う。</p> <p>イ. 若手教員、新規採用教員全員が公開研究授業と研究協議会を1回以上実施する。</p> <p>(3)教員対象の人権研修を数回実施する。</p>	<p>(1) 教育相談委員会を創設して精神的に不安定な生徒のケアに努めた。(◎)</p> <p>精神的にケアが必要な生徒 計32名 <b>(4名増)</b></p> <p>年度当初 高1:12名 高2:5名 高3:5名 中1:3名 中2:6名 中3:1名</p> <p>起立性障害で朝起きれない生徒が多数在籍していた。カウンセラーや担任の連携で改善がみられる生徒が増えてきている。反面、起立性調節障害、適応障害等でなかなか登校できない生徒がいる。高校3年生は校医、カウンセラー、担任の連携で適応障害等で登校が厳しい生徒も全員が卒業できた。</p> <p>(2)授業力の向上</p> <p>ア. 新規採用の教員は1人あたり3回～4回の授業見学を実施した。(△) 新規採用の常勤講師の授業を1人あたり3回以上見学し、指導を行った。。</p> <p>イ. 今年度はアクティブラーニングの研究を行い、芸術、体育、家庭を除く5教科で研究授業を実施した。(△)  (12月17日)</p> <p>(3). 職員人権研修として西川寿美子氏を講師として招き実施した。(7月23日) テーマ「電話相談から学ぶ安心と安全」 ～一人ひとりが大切にされる学校に～ (△) 人権HR 春と秋に学年別のテーマでそれぞれ2回実施 (○) 例 春の人権HR 高1 「いじめ防止の言葉」 高2 「民族マイノリティ、レイシズム」 高3 「就職差別</p>
<p>4 教職員の学校運営に対する意識の向上</p>	<p>(1)教職員の学校運営に対する意識の向上</p>	<p>ア 職員会議の時間を短縮し、教員が生徒と係わる時間を増やす。</p> <p>イ PTAの活性化に協力する。</p> <p>ウ 学校における危機管理に関する研修会を開催し意識の向上を図る。</p>	<p>ア 職員会議の時間を1時間未満に短縮し、教員が生徒と係わる時間を増やす。</p> <p>イ PTA 行事は活性化している。</p> <p>ウ 危機管理の研修会を実施する。</p>	<p>ア 職員会議はPCを活用して時間短縮した。概ね1時間で実施できた。また、ペーパーレスでの実施のため、印刷に必要な紙の節約にもなった。(○)</p> <p>イ PTAの行事は年々活性化している。令和元年度の秋の社会見学会は過去最高の参加人数(93人)であった。高校の文化祭でも本部役員を中心に多数のPTA方々の協力を得て模擬店は大盛況であった。(◎)</p> <p>ウ 危機管理に限定した研修会は実施できなかった。(×)</p>

自己評価アンケートの結果と分析〔令和2年1月～2月実施〕

【結果】

- 資料① 令和 元年度 学校評価（生徒）アンケート集計表
- 資料② 令和 元年度 学校評価（保護者）アンケート集計表
- 資料③ 令和 元年度 学校評価（教職員）アンケート集計表

【分析】

1. 実施状況

対象		対象者数	回収数	回収率	調査期間	備考
生徒	高校3年	305	291	95.4%	令和2年2月28日	資料①
保護者	全学年	1066	956	89.7%	令和2年2月1日～28日	資料②
教職員	常勤	61	30	49.2%	令和2年2月10日～3月6日	資料③

2. 対象別アンケート結果

○ 生徒（高校3年生）

アンケートの項目（全30項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表1である。肯定的評価が80%以上の評価の高い項目は25項目で全体の83%、肯定的評価が60%未満の評価の低い項目は0項目であった。評価A+Bが90%以上の「評価の高い」18項目は、昨年より11項目の増加となっている。80%以上では8項目の増加であった。全項目の肯定的評価の平均値は78.7%から88.9%に飛躍的にアップした。

表1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R元年度	17	8	4	1	0	0	0		30
H30年度	7	10	10	3	0	0	0		30
H29年度	7	12	9	2	0	0	0		30
H28年度	9	16	3	2	0	0	0		30

ア. 評価A+Bが90%以上の「評価の高い」項目

- ・学校の授業は、総じて分かりやすい : 95.2%
- ・文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している : 90.7%
- ・学校は、学力向上に取り組んでいる : 96.9%
- ・学校の生徒会活動は活発である : 90.7%
- ・学校は、わからなかったときの補習、質問指導に熱心である : 95.5%
- ・大学の進路指導に関して適切なアドバイスがある : 92.8%
- ・自分のクラスは総じて楽しい : 93.5%
- ・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる : 95.9%
- ・先生は、いじめや暴力のないクラスづくりに取り組んでいる : 93.1%
- ・先生は、熱心に指導している : 98.6%
- ・先生は、生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている : 93.1%
- ・困ったとき、相談をしたり手助けをしたりしてくれる先生がいる : 93.5%
- ・先生は、生徒の間違った行動を改めるように指導している : 97.3%
- ・事務室での手続きや相談の対応は、親切である : 90.0%
- ・学校は、緊急時の対応を生徒に伝えている : 92.4%
- ・保健室での処置や相談の対応は、親切である : 91.8%
- ・学校は、災害が起こった場合の訓練を行っている : 97.6%
- ・大和田高校に入学してよかったと思っている : 92.4%

イ. 評価A+Bが70%未満の「評価の低い」項目

- ・学校の施設・設備は学習環境の面で満足できる : 60.1%

○ 保護者（高等学校）

アンケートの項目（全33項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-1である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は18項目で全体の55%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は2項目あった。その1項目は「学校のPTA活動には参加しやすい。」であり53.1%であったが、数字の上では昨年の53.9%より0.7%減少した。また、「学校の施設整備は学習環境の面出で満足できるか」との設問には53.9%しか肯定的な評価がなかった。昨今、近隣の私学では校舎を新築したり、ICTの充実を行なう学校が増えており、本校の校舎の老朽化が目につく結果ではないかと思われる。

評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」3項目は、以下の通りである。肯定的評価（A+B）の80%台、70%台の項目数が増加し、60%台が減少した。

表2-1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R元年度	3	15	12	1	2	0	0	0	33
H30年度	2	13	11	5	2	0	0	0	33
H29年度	2	15	13	2	1	0	0	0	33
H28年度	6	18	6	2	1	0	0	0	33

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

- ・お子様は文化祭、体育祭、宿泊行事などの学校行事に積極的に参加している : 93.1% ↑1.8
- ・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。 : 92.2% ↑3.5
- ・事務職員の保護者への対応はよい。 : 91.0% ↑1.9

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

- ・学校のPTA活動に参加しやすい : 53.1% ↓0.7
- ・学校の施設・設備は学習環境の面で満足できる : 53.9% ↑0.4

○ 保護者（中学校）

アンケートの項目（全33項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-2である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は20項目で全体の60.6%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目はなかった。

評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」5項目は、以下の通りである。

表 2-2 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R 元年度	5	15	9	4	0	0	0	0	0
H30 年度	3	16	11	2	1	0	0	0	33
H29 年度	5	14	10	3	1	0	0	0	33
H28 年度	8	15	8	1	1	0	0	0	33

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

・学校は、緊急時の対応を生徒や保護者に伝えている。	: 90.5%	↑12.3
・お子様は文化祭、体育祭、宿泊行事などの学校行事に積極的に参加している	: 94.4%	↑1.7
・学校は資格、検定の取得に取り組んでいる	: 95.3%	↑1.1
・事務職員の保護者への対応は良い	: 95.2%	↑5.2
・学校のホームページをご覧になったことがある	: 95.7%	↑0.7

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

該当なし

○ 教員

アンケートの項目（全48項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表3である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は17項目で全体の35.4%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は12項目で全体の25.0%であった。評価A+Bが90%以上の「特に評価が高い」項目の8項目と評価A+Bが50%未満の「評価の低い」9項目は、以下の通りである。昨年度に比べて、アンケートの回収率が低い。

表 3 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～20	～10	項目総数
R 元年度	8	9	16	3	3	6	3	0	0	48
H30 年度	13	8	8	6	5	3	4	0	1	48
H29 年度	11	12	8	2	7	2	1	3	2	48
H28 年度	20	10	4	5	4	2	2	1	0	48

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

・年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	: 91.2%	↓6.9
・進路の実現に向けて計画的な学習指導がなされている。	: 91.2%	↑0.5
・中高生にふさわしい服装をすること、またはふさわしい行動がとれるように徹底した指導を行っている	: 92.6%	↓2.8
・挨拶をすることや時間をまもる指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。	: 90.3%	↓9.7
・生徒指導において、家庭との連携ができています。	: 91.2%	↓1.4
・体調不良・ケガ等への対応はスムーズに行えている。	: 94.1%	↑8.9
・保健室の機能が十分に活用されている。	: 93.3%	↑0.3
・カウンセリング制度があり、活用されている	: 97.1%	↓1.0

イ. 評価A+Bが40%未満の「評価の低い」項目

・評議員会、理事会の役割や機能について理解している	: 35.3%	↑16.8
・併設大学・短大との連携体制が整い、指導が行われている。	: 35.3%	↑3.8
・初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある	: 35.3%	↑5.2

## 学校関係者評価委員会からのご提言

### ○ 学校評価委員会 実施日時

令和2年3月11日（水金曜日）実施予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため会議は中止し、各委員に資料を郵送してご提言を頂いた。

### 評価委員

大阪国際学園理事	鈴木 隆様
守口市立大久保中学校長	松本 紀容子様
寝屋川市立第五中学校長	宮崎 浩太郎様
大阪国際大和田三窓会会長	岩本 和也様
大阪国際PTA会長	小鹿 一義様
守口市大久保校区地域代表	小野 勝幸様

### 学校側

大阪国際大和田高等学校校長	中井 孝典
〃 副校長	黒川 泰宏
〃 教頭	田中 茂
〃 事務長	塚本 和宏

### 校長より今年度の取り組みに関して

#### 1. 確かな学力の育成について

授業改善の取り組みは喫緊の課題である。従前の授業の様に一方的な授業や一問一答式の授業では暗記が中心となり、思考力や判断力、表現力を育てて伸ばすことが出来ない。日ごろから教員にはアクティブラーニングを取り入れた授業を行うように指導している。

生徒の学校アンケートにおいて「授業がよくわかる」という項目の内、A評価が30%を超えることを目指した。評価が低い学年もあったが、全体の平均が30%を超えたことは目標達成でもあり、良かったと考えている。今後はさらに授業を改善し、生徒が主体でかつ、良くわかる授業となるように改善していきたい。

一方、毎年ベネッセのスタディサポートを実施して学習の状況を調べている。概して家庭での学習時間が少ないと思われる。本校は毎日7時間の授業を実施し、さらに部活動も奨励していることから帰宅時間が遅くなり、他校の生徒に比べてどうしても家庭での学習時間が少なくなる傾向がある。しかし、授業を振り返って理解したり予習などを行うと、平日では少なくとも2時間、休日では4時間程度の家庭学習が必要であると思っている。アンケートによると平日で1時間30分程度、休日で2時間15分程度という結果は改善が必要であると思う。希望する大学へ進学するためには家庭学習をしっかりするように継続して働きかけたい。

大学進学実績においては、昨年度は過去最高の実績であり、国公立へ65名、関関同立へ212名などであった。今年度の国公立の最終結果はまだわからないが、3月12日現在では、京都大学2名、大阪市立大学の医学部医学科に1名が合格するなど59名がすでに合格しており、後期試験の合格者を加えると前年度を超えることは確実である。一方、難関の私立大学の合格者においても3月12日現在では関関同立では284名、産近甲龍では286名であるので国公立、私立大学とも過去最高の実績になると思われる。

今後の英語教育はグローバル化がどんどん進むことから、いわゆる4技能が必須となると思われる。英語教育にはしっかりと取り組んだ。英語検定においては高校2年生で準1級の合格者がでるなど大きな成果があった。準1級は合計5名、2級にも198名が合格したことは良い結果であったと思われる。

#### 2. グローバル社会において活躍できる人材の育成について

中高ともグローバルに活躍する生徒の育成を願って海外研修を積極的に取り組んでいる。しかし、新型コロナウイルスの感染防止のため、2月、3月の研修は全て中止となったのが残念であった。昨夏はケンブリッジ大学への研修は8名が参加した。次年度はもう少し増やしたい。

本校の教育目標は文武両道であり、さらに心が広く、他人の心の痛みも分かる優しい人材の育成である。将来、国際舞台で活躍できる生徒の育成のためにも心優しい人材の育成は不可欠であるためにココロの学校を実施している。今年度も各方面で活躍しておられる5名の方々に講演をして頂き生徒の心の琴線に触れるような感動的なお話をたくさん頂いた。きっと心優しい生徒に育ってくれると期待している。この取り組みは次年度も継続する予定である。

#### 3. 教員の資質の育成について

私は教員の資質の内、もっとも大切な資質は子供の心身の状況をしっかり理解して個々の生徒に寄り添う力であると思っている。本校は一生懸命に勉強する生徒が多いが、案外、自己肯定感を持つ生徒は多くはない。むしろ、自信を欠いていたり、自己に厳しすぎる生徒が少なくなく、その結果、精神的な病気に罹患する生徒が少なからず存在している。そのような生徒の状況を学年単位で共有して改善につなげたいと考え、教育相談委員会を定期的に開催している。

いわゆる不登校生徒を早期に発見し、家庭と連携したりカウンセリングを受けさせたり、また、思春期外来等の精神科医師と連携することが重要であると考えている。今年も定期的に教育相談委員を開催して登校が常でない生徒等の把握を行い、学校医先生や外部機関との連携を行った。その結果、高1、高2は全員が進級し、高校3年生は全員が卒業できるなど成果が見られた。今後はさらに生徒をしっかりサポートして不登校状態の改善をめざし、全員が安心して学べる学校づくりをめざしたいと考えている。

#### 4. 教職員の学校運営に対する意識の向上。

##### ①PTAとの連携

教職員の学校運営に対する参画意識は大事である。その中の1つとして、学級経営の基本である保護者との懇談や、PTA役員との意思疎通等をとおしてPTAとの交流を深め、PTA活動を活発にして行くことは重要であると考えている。PTAのご理解やご協力があってこそ学校経営は成り立っていると言っても過言でない。

本校のPTAは会長以下、本部役員の方々や学級委員の皆様の学校に対する協力や理解、支援は大変ありがたいと思っている。また、本当に活発に活動して下さっており、昨秋のPTA研修では93名もの方が参加して頂いた。過去最高の参加者数であった。体育祭や



文化祭でも本当にたくさんの方々積極的に協力して下さり学校とPTAの連携は年々深まっている。心から感謝したい。

## ②教員研修

人権研修は講師を招聘して予定通り実施した。授業改善については各教科ごとに教科会議で議論を行い、12月に実施した研究授業につなげた。今年度は4月からは働き方改革が実施されており、今までは午後8時以降も仕事をする先生が多い中、如何にすれば勤務時間内で勤務を終了できるかについて各分掌や学年でも議論して頂いた。

勤務時間を超えての残業は基本的には原則としては認められないので仕事の整理に取り組んで頂き、19時退勤日の設定や各個人ごとに18時で退勤する日を設定するなどの結果、勤務状況の改善が見られた。

部活においても、日曜日は原則として部活を実施しない日とし、さらに週に1日は休部の日を設定するなどの結果、働き方改革については多少とも意識改革が見られた。しかし、全員を拘束する時間を十分に確保できなかったため結果として教員の研修時間を取れなかった。次年度は研修時間の確保が必要であると考えている。

## 各委員からのご提言

### 1. 鈴木委員（大阪国際学園理事）

自己評価アンケートの結果と分析の1、実施状況の教員の回収率の備考欄にその状況説明は明確に記載しておくべきである。全体的にきちんと集計されているので、それぞれの項目やジャンル別に分析し、次年度からの具体的実践課題を明確にして新年度のできるだけ早い段階から教職員が共通理解をして取り組むよう準備して頂きたい。特に、大和田中高等学校の一番PRしたい事は「どんなことなのか」をさらに焦点化して教職員が心を一つにして外部へPRしていく。（新中高への移行の大事な年度ですので、細心の心配りをして総力をあげて取り組んで頂きたい。数々の素晴らしい実践がアンケートから見えている。）

そして、毎年教員の研修項目について同じような数値の結果である。「働き方改革」等の導入でなおさらまとまった研修時間の確保は困難な状況になっている。ならば、教職員の個々の使命感と情熱をもって生徒と日々接している先生方の意識をあと少しだけレベルアップしていくためには、組織の上に立つ方またはそれぞれの専門分野で活躍されている方々の内容の濃い実践のエキスを日々の短時間のモザイク的（モジュール的）な交流機会を無理なく、しかし、意図的計画的に工夫してお互いに学び合っていく雰囲気を醸成していくことが大切になってくる。

自分自身を高めていく方法はいくらでもあり、いつどんなきっかけで気づくかである。結びに、下記の言葉を記して提言にかえさせていただきます。

～長所～

人間の長所、短所というものは別々のものではない。長所が短所であり、短所が長所であることが多い。だから短所を如何にして長所にするか、長所を如何に短所にしないか、ということが修養の一つの秘訣である。

～自己修養の秘訣～ 安岡正篤 「ここに書き写す言葉」から

### 2. 小鹿委員（PTA会長）

PTA役員会は広報・進路・文化厚生・保健体育と4つの委員会の運営体制発足から、はや8年経過し、年を重ねる毎にPTA行事への関心度は着実にアップしているものと思われます。行事ごとの内容も各委員会で工夫を凝らし、準備段階から楽しく、中身も充実しております。子供たちの充実した学校生活の為に、何ができるのか考え、保護者同志や先生方との、仲間作りの場として、情報アップデートの場として、より一層、主催行事を充実させ、楽しく盛り上げていきたいと考えております。

子供たちの応援団であり、大阪国際大和田の応援団であるので、クラブ活動費の補助や文化祭売上金の生徒会への寄付など、学校との協力体制を維持し、子供たちや学校の更なる発展の為に、微力ながら貢献したいと思っております。

今後の課題としては、「おおわだ日記」のような充実したホームページの活用を見習い、PTA活動の報告や次の行事の告知などの注力をしたいと考えます。また、地域や学校とのコラボレーション企画として、「地域貢献型の災害対策自動販売機の設置」や、「パラリンピック種目（ボッチャ）の保護者向け講習会」「生徒向けでなく保護者向けの授業企画」など、新しい企画への試みも委員の中から出てきております。

### 3. 岩本委員（同窓会会長）

・初任者等経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。しかし、CとDの割合がかなり大きく、若手にとっては手探りになりがちな傾向が見られる。先生方はお忙しいと思うが、若手がサポートを実感できる体制作りをして、それを次の世代に受け継いでいく流れを作る必要がある。

・生徒の情報活用能力の育成を行っている。

・人権尊重に関する様々な課題や指導方法を教員が研究する体制がある。

生徒にとってどちらも学業ではない面で必要となるものである。先生方にも情報活用能力や人権尊重の見識を広めていただき、生徒に影響力を持ってほしい。

#### 教員アンケートについて

教員アンケートの回収率の低さが気がかり。全員参加してこそ見えてくるものがあるので、何とか100%に近づけるような工夫が欲しい。項目の数から見ても10分もあれば終わる内容なので、教員が一堂に会する所で時間を作るのはどうか？

#### 高校生向けアンケート

・学校の施設・設備は学習環境の面で満足できる。の項目が昨年に引き続き他の項目と比べて低めとなっている。生徒がどういう所に不満を持っているのかを明確にしたほうが良いかもしれない。世間一般で言う良い施設・設備と生徒が求めるものが合致していない可能性がある。

・教育活動、進路の項目について

生徒は全体的に好意的に考えている。大和田高校が進学校としてのアイデンティティを保っている証拠だと考えられる。

#### 教員について

昨年に引き続き、生徒からは先生が熱心に指導しているということが感じ取れる。全体的に、BをAに持っていくことも大事だが、CやDをBに持ち上げることも重要。特にCが25%を超えている項目は改善が必要と考えられる。

#### その他学校の活動について

・facebookは更新頻度が高く、見ごたえがあるものが多くて良いと思う。保護者やこれから受験を考える生徒や保護者が学校内の活動を身近に感じられる良い取組である。



4. 宮崎委員（寝屋川市立第五中学校長）

- ・大和田高校は寝屋川市で開催いたしました私立高等学校等説明会において、会場一杯の保護者等の入場があり、立ち見の方もおられるほどの大盛況ぶりでした。貴校に保護者が寄せる関心の高さが伺えました。先生方の日頃のご指導の賜物であると存じます。
- ・大阪国際学園90周年記念行事の際、貴校生徒が英語でプレゼンテーションしている姿を見て、「ここまでできるのか！」と感動しました。英語のスピーキングもさることながら内容的にもとても好感の持てる素晴らしいものでした。先生方の指導の素晴らしさを地元中学の教員として嬉しく思いました。
- ・2, 3月の海外研修が中止になってしまい、楽しみにしていた生徒さんには残念であると思います。何らかの救済措置がとれるならばしていただきたいと思います。
- ・進学についても、英語検定についても、年々成績を上げておられることも素晴らしいと思います。今後は海外の大学への進学指導やアドバイスも充実していただければ良いと考えます。

5. 小野委員（大久保校区地域代表）

- ・中学校と高校生の評価集計の違いを比較してみました。30設問中A+B%の高い設問を比較しました。高校生が22設問、中学生が8設問です。同じ設問で中学生と高校生を比較するのは無理があるかもしれませんが、これは高校生になって目標に向かっての自覚の現れと思っています。
- ・学校評価（教員）アンケートの集計表、設問No. 46・47・48（A+B%）の研鑽と情報の共有化することが大切ではないかと考えます。
- ・ボランティア活動については、令和3年4月から大久保中学校コミュニティスクール（大久保中学校区運営協議会）活動が始まります。学校と地域が色々な形で交流ができればと思っています。今年3月の評価委員会の際、学校周辺の清掃活動等多方面で活躍されているとお聞きしました。
- ・全体的に評価の低い、学校施設・設備・学習環境の向上、老朽化難しいですね、継続課題として。  
(新型コロナウイルス感染拡大が1日も早く終息することを祈っています)

6. 松本委員（守口市立大久保中学校長）

- ・特に提言はありません。生徒のアンケートでは肯定的な評価が今年は大きく伸びるなど、学校の目標に沿った成果が着実に伸びていると感じています。益々の発展を期待しています。